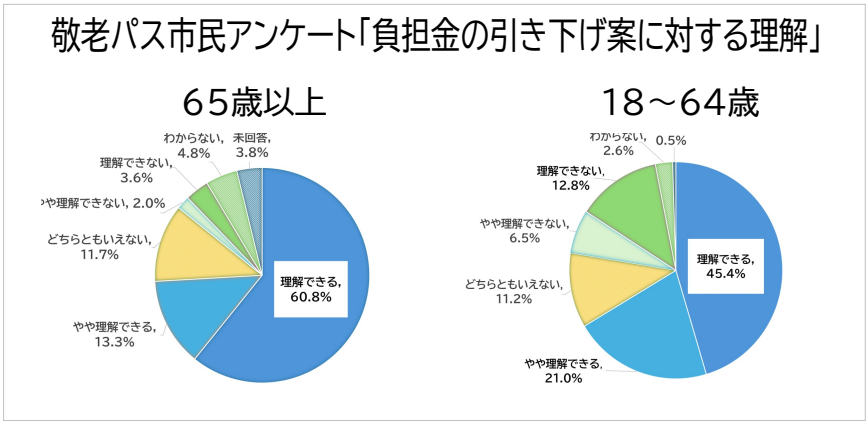
日本共産党名古屋市議団 市政ニュース
2026年1月9日
No.108
http://www.n-jcp.jp
名古屋市中区三の丸三丁目１－１
電話052(972)2071　FAX052(972)4190
発行・日本共産党名古屋市会議員団

市民アンケート　敬老パス値下げに現役世代も「理解」

財政福祉委員会　（2025年12月26日）　田口一登議員

２０２５年１２月２６日に開かれた市議会財政福祉委員会で、市健康福祉局が実施した「敬老パス市民アンケート」の結果が報告されました。アンケートでは、敬老パスの負担金を、年額５千円は３千円に、３千円は２千円に引き下げる案に対して、「理解できる」と「やや理解できる」が合わせて、６５歳以上では７４．１％、１８～６４歳でも６６．４％にのぼり、「幅広い世代の理解がおおむね得られた」（市当局）結果となりました**（右グラフ）**。



来年度実施は見送り？

しかし、同委員会に出席した広沢市長は、財政が厳しいことを理由に「来年度の実施は見送る」と言いました。値下げを実施するためにはシステムの改修に１０か月程度かかり、そのための経費は２千万円程度だそうです。「来年度、２千万円も出せないのか」と自民党市議が口火を切り、田口議員も「市長の答弁は理解できない」と速やかな実施を求めました。

弥富相生山線（天白区）折衷案と当初の計画違いあるの？

土木交通委員会　（2025年12月26日）

片側1車線の相互通行と片側歩道

2025年12月26日に開かれた市議会土木交通委員会で市緑政土木局は、弥富相生山線の「修正した折衷案」を示しました。その内容は、「片側1車線の相互通行と片側歩道」の橋りょう形式の道路で未着工区間をつなげるというものです。これは、当初の計画と同じではないでしょうか。

市がこれまで検討してきた折衷案は、緊急車両のみ通行可で、緊急車両のみがすれ違える6～8m幅の道路でした。それでも自然環境に影響を与えるとして、市民団体からは撤回を求める声があがっていました。今回の「修正した折衷案」は、折衷案に名を借りた「建設工事再開」であり、地元住民の理解は得られないでしょう。

緑政土木局も「道が通ることによる緑地の乾燥化対策の検討」などを課題にあげており、自然環境への影響は避けられません。

3月までに住民説明会

緑政土木局が示した今後のスケジュールでは、今年3月までに地元住民や市民団体などへの説明を行い、2026～27年度に測量・地質調査および詳細設計を行う。そして2027年度以降に工事するとしています。